

第20回

日本女性腎臓病医の会

JSWN総会

Japanese Society of Women Nephrologists

日時 **2023年 6月9日(金)** 総会 19:00~21:00 (18:40受付開始)
懇親会 21:00~22:00

会場 **TKPガーデンシティPREMIUMみなとみらい ホールB**
〒220-0012 神奈川県横浜市 西区みなとみらい3-6-3 MMパークビル 5階

形式 対面およびオンライン開催 参加費 現地参加3000円(懇親会費を含む) / オンライン参加1000円(会員の方は別途JSWN年会費2000円を申し受けます)

第20回当番世話人 衣笠 えり子 昭和大学横浜市北部病院 内科 松尾 七重 東京慈恵会医科大学 腎臓・高血圧内科

プログラム

JSWN研究活動奨励賞・JSWN症例報告論文賞授賞式

座長 宮崎 真理子 東北大学大学院医学系研究科 腎・膠原病・内分泌内科学分野
鳥巢 久美子 九州大学大学院医学研究院 包括的腎不全治療学

●2022年度症例報告論文賞

山田 安希 先生 東近江総合医療センター 内科
林 綾香 先生 東京慈恵会医科大学 腎臓・高血圧内科

●2021年度受賞者経過報告

田中 景子 先生 岡山大学大学院医歯学総合研究科 血液浄化療法人材育成システム開発学
「傷害系球体に作用する血小板分子CLEC-2の効果」

若松 彩子 先生 新潟大学医歯学総合病院 腎膠原病内科
「全身性エリテマトーデス末梢血単核細胞での抗リボソームP抗体
エピトープ発現と病態形成との関連についての検討」

●2022年度受賞者講演

中道 蘭 先生 慶應義塾大学 内科学教室 腎臓内分泌代謝科
「DNA損傷ポドサイトとCD8+T細胞のcrosstalkはDNAメチル化変化を
伴う、全身性のCD8+T細胞の変化を惹起し、腎障害の憎悪に寄与する」

古志 衣里 先生 名古屋大学大学院医学系研究科 腎臓内科学
「微小変化型ネフローゼに対するリソキシマブ治療の作用機構の
全容解明を目指して—ヒト末梢血白血球の網羅的解析を通して—」

特別講演

座長 衣笠 えり子 昭和大学横浜市北部病院 内科
谷口 倫子 先生 厚生労働省 医政局 地域医療計画課
外来・在宅医療対策室長
「国の医療政策について」

Meet The Legends

座長 武曾 恵理 京都華頂大学 現代家政学部
湯村 和子 先生 東北医科薬科大学病院 腎臓内分泌内科
原 茂子 先生 原プレスセンタークリニック 腎臓内科

総会后懇親会 地域活動報告

JSWN第20回総会是对面およびオンラインで開催いたします。

対面参加

事前オンラインおよび当日現地申込にて参加登録を受け付けます。

オンライン参加

事前オンライン申込にて参加登録を受け付けます。

参加登録サイト: <https://jswn20th.peatix.com>

参加登録締切: 2023年6月7日(水) 17:00

※Peatixでのお申し込みにはPeatixアカウント登録(無料)が必要です。

※Peatixシステムでご不明な点はPeatix公式ヘルプにてご確認ください。

事前参加登録

1 申込ページを開きます
日本女性腎臓病医の会第20回総会
<https://jswn20th.peatix.com>



2 「チケットを申し込む」をクリックします チケットを申し込む

3 チケットを選択します。
支払い方法を選択します ログインへ進む

4 Peatixにログインします 次に進む

5 事前アンケートに回答し申し込みます
申込完了メールが届きます チケットを申し込む

オンライン参加

開催前日にPeatixからリマイン
ドメールが送信されます。
「イベント視聴ページに移
動」をクリックしてZoomに
参加します。

イベント視聴ページに移動

対面参加

直接会場にお越しください。

お支払いに
ついて

クレジットカード払いやコンビニエンスストアよりお納め
いただけます。事前決済により申込が確定となります。
払い戻しはできません。

第20回 JSWN総会

Japanese Society of Women Nephrologists

「国の医療政策について」

厚生労働省医政局地域医療計画課 外来・在宅医療対策室長 谷口倫子

我が国の人口動態を見ると、現役世代(生産年齢人口)の減少が続く中、いわゆる団塊の世代が2022年から75歳(後期高齢者)となり、その後も2040年頃まで65歳以上の人口増加が続いていく。また、2025年以降、高齢者の急増から現役世代の急減へと局面が変化する。2025年に向けて高齢者、特に後期高齢者の人口が急速に増加した後、その増加は緩やかになる一方で、既に減少に転じている生産年齢人口は、2025年以降さらに減少が加速する。2次医療圏単位でみると、2015年から2025年にかけて、多くの地域で、65歳以上人口の増加と生産年齢人口の減少が起きるが、2025年から2040年にかけては、65歳以上人口が増加する地域と減少する地域に分かれ、地域によっては高齢者の減少と現役世代の急減が同時に起こる状況が発生すると予想されている。要介護認定率は、年齢が上がるにつれ上昇し、特に85歳以上で上昇する。85歳以上の人口は2040年に向けて引き続き増加が見込まれており、医療と介護の複合ニーズを持つ者が一層多くなることが見込まれる。

このような超高齢化・人口急減の中、手術や急性期医療をはじめ、医療ニーズに大きな変化が生じる。外来患者は既に減少局面にあり、入院患者数は全体として増加傾向、在宅患者は多くの地域で増加する。また、死亡数についても増加が見込まれ、ピーク時には年間約170万人が死亡すると予想される。

こうした局面において、2025年以降、人材確保がますます課題となり、2040年には就業者数が大きく減少する中で、医療・福祉職種の人材は現在より多く必要となる。特に提供者側である医師の高齢化も進展しつつあり、変化に対応した医療提供のあり方が求められる。

厚生労働省では2025年度に開始される第8次医療計画へ向けて検討を行い基本的な方向性をとりまとめており、今回ご紹介させて頂くとともに、急激な変化の中にある医療提供体制のあり方について、ぜひ先生方の御知見を賜りたい。

プロフィール

平成19年長崎大学医学部卒業。

国家公務員組合連合会横浜栄済病院腎臓内科、済生会横浜市南部病院腎臓高血圧内科、大森赤十字病院腎臓内科等で勤務の後、厚生労働省入省。現在医政局地域医療計画課に在職、外来・在宅医療対策等を担当。